

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071100939
法人名	有限会社 めぐみ
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地	〒811-1355 福岡県福岡市南区松原1丁目17番16号 092-554-7633
自己評価作成日	平成 24年10月20日
評価結果確定日	平成24年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294
訪問調査日	平成 24年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りと、普通の家族生活を目指し、利用者スタッフの壁を作らない介護をめざしています。また地域との連携でホーム内に限らず町内の高齢者に関しても、連携してしえんするようにしたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改造型のグループホーム「めぐみ」は、松原の桜で有名な松原1丁目の住宅街の一角にあり、周囲は、学校や商店、スーパー、銀行等、買い物や散歩が出来る便利の場所にある。町内会に加入し、清掃やランドゴルフ、どんど焼き、河川の清掃等、管理者は、町内の班長として、地域貢献を目指している。職員は、利用者の一日が、自由で、のびのびと、ありのままの暮らしが出来るよう支援し、家族の喜びに繋げている。また、利用者の体調管理は、常勤看護師と協力医療機関、在宅医との連携で24時間充実した健康管理体制を確立し、代表の福祉事業に対する熱い想いを職員全員が理解し、利用者の重度化に向けて、いつまでもホームで暮らし続けるための環境や、体制を整えているグループホーム「めぐみ」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣の方々との交流を図り、利用者さんの安全で安心できるサービスの提供を共有した介護を実践しています	地域密着型サービスの意義を踏まえた「人間としての尊厳、自立した生活、身体・精神の安定、地域の交流拠点を目指す」といった事業所独自の理念を玄関に掲示している。理念を、定例の職員ミーティングで確認し、日々の介護活動に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での位置付けを自覚し、利用者の安全で安心できる介護を共有し、サービスに努めています	町内会に入会し、回覧板、市政だよりの配布や地域活動など、利用者が地域と繋がり、事業所自体が地域の一員として日常的な交流を深めるよう努めている。運営推進会議や防災訓練にも地域の方の積極的な協力も得られており、高齢者介護を中心とした、地域の交流拠点としての役割を担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員会等により、独居老人のネットワークを取っていますが、まだまだ実践は少数ですがこれからも継続していきたい		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記のほか、防災等の呼びかけや町内行事への参加と近隣の高齢者に関する情報交換を得て意見交換をし、サービスの向上に活かしている	会議は、関係者出席のもと2ヶ月毎に開催されている。ホームのサービス提供状況や課題等について意見交換が行われ、出された意見や提案を、ホームの運営に活かす取組みを行なっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの訪問や市保護課等との情報交換によるサービスの実践をしています	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情や取組み状況についての理解が得られている。同時にホーム運営上の情報交換が行われている。また、福岡市保護課との連携・協力関係を築く取組みも実施されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修、マニュアル等による身体拘束をしないケア等を実施しています	身体拘束マニュアルを整備し、管理者と職員は、研修会、勉強会を通じて理解を深め、身体拘束をしないケアの実践を目指している。尚、現在1名の利用者に対して、家族への説明を行い同意書を取り交し、期間を明示し、記録を行うなど適切な対応がとられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアル・勉強会等により日常より全員が注意を払い、防止しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営委員会のメンバーに司法書士さん、民生委員さんの意見を吸収し、活用できるようにしています	現在、成年後見制度を活用する利用者がいる。運営推進会議に「成年後見人」の出席により、制度の説明を受ける機会があり、権利擁護に関する理解は深まっている。ホームとして、研修の実施や関連資料の準備等への取組みも行なわれ、利用者や家族から制度活用の希望があった場合、いつでも活用支援ができる体制となっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の事前に自宅又は入院先を訪問し、ご家族との情報収集図り、契約時には重要事項説明等の細やかな説明等を実施しています		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の希望等を聞き、プラン等に反映しています	玄関に「投書箱」が置かれている。運営推進会議へ家族の出席や季節の行事、ホーム来訪時に家族の意見・要望を聴いている。また、毎月発行している、「ホーム便り」や「連絡帳」で利用者の暮らしぶりを家族に報告しているが、家族の関わりに濃淡があり、ホームへの足が遠のきがちな家族への対応を検討中である。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を定期的に行い、意見交換の場でのディスカッションを行っています	毎月定期的に定例職員会議が開催されている。運営方法や利用者の受入れ、職員交替など議題は多岐に渡っている。そこで職員の意見・要望・提案を聴くようにしている。会議は活発に意見交換が行われており、堅苦しい会議ではなく、意見が出しやすい雰囲気になるよう配慮されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日の希望日、介護関係資格の休日、給与水準等の改善を行い、自動車通勤者用の駐車場の施設近隣に確保する等を実施しています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別等による差別なく、職員にあった業務を鑑みて適材適所配置、個性を重んじ家庭的な雰囲気作りに努め、研修等の希望を募って、スキルの向上をめざしています	職員採用は、年齢や性別の制限は設けていない。採用後は、資格取得へのバックアップや経験年次に応じた研修を促進している。職場は、特別なユニホームもなく家庭的な雰囲気の職場である。定年制も設けられず、職員定着率は高い。ホームで働く職員一人ひとりの能力を發揮し、生き生きとして働ける職場環境に取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法令遵守・人権問題等差別のない環境作りにつとめています	福岡市の主催する、接遇・人権研修に管理者が参加し、ホームでの伝達研修を実施している。また、理念に「人間として尊厳をもって暮らしていく」と謳い、管理者と職員は、利用者の人権や人格の尊重に特段の配慮を行ない、ホームでの暮らしが安全で安心して暮らしていける環境を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意分野と個性及び長所・短所の把握をし、対利用者さんへの対応やスキルを指導しています		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設見学等により、意見交換と施設情報の確保しつつ、サービスの向上に努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前述したように、入居前の自宅又は病院訪問し、雰囲気作りの情報・その人の生活での留意点等を把握し、入居時の不安解消に努めています		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のように、入居前での訪問と入居者さんへの面談で、家族の希望・本人の嗜好・ヒストリイ等の情報によりプランに反映している		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の訪問時のタイミングや期間設定、家族との密な連絡により、孤独感の解消や不安の解消に努めています		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する立場と介護される立場の壁をつくらないように家族的な雰囲気をつくっています		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのそれぞれの年齢や個性を考え、長男・長女を設定し、普段着による対応を目指し、自然体の姿勢にて支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や訪問者には近況の報告と再度の訪問をお願いし、関係継続につとめています	利用者が住み慣れた場所や人との関係が、途切れないよう、家族の協力を得ながら積極的に支援している。然しながら最近では、知人・友人の訪問が少なくなりつつある現状であるが、ホームを中心とした場所や人との新たな関係や交流が形成されつつあり、関係継続の為の支援も始められている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの食事・おやつ・テレビ観戦等の中でのお互いの交流を図り、入居者同士が支えあっています		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後のご家族の訪問・相談等に開放しており、愚痴等の話し相手としての立場を実施		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や日常の利用者さんの動向・生活リズムをスタッフ全員で把握し、その情報も念頭にプランを立てている	家族からの情報と入居時のアセスメントで、利用者一人ひとりの希望や意向の把握を行ない、ケアプランに反映させている。利用者全体が重度化傾向にあるなか、意向の把握が困難になりつつあるが、職員全員で利用者に寄り添い、利用者の思いや希望に応える支援を行なっている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生きてきた環境(家族・時代背景・職業等)のヒストリを把握し、留意点を模索しながらプランに反映している		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で、利用者さんの個性又は癖・嗜好・身体的、精神的な状況の把握につとめている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、推進運営委員会等のミーティングにより、介護プランの作成に反映しています	利用者や家族の意向をもとに関係者が参加する、サービス担当者会議、ケアカンファレンス、モニタリングを定期的に実施している。見直し(3ヶ月毎)も同様に行なわれている。それぞれの意見・提案を反映し、利用者の状態変化に応じた、利用者の暮らしを反映した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や定例会議（カンファ含み）等による意見交換による情報を共有し、介護計画に活かしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの生活リズムを大切に、施設と思わせない、要するに長屋感覚をめざします		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんの一人ひとりの身体的・精神的状況把握し、防災等の地域の「協力要請」と行事への参加により季節感・歳時を大切にしています		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間1回の往診を実施し、緊急時は在宅医への協力要請体制と救急病院等の迅速な紹介等により支援しています	受診は、利用者及び家族の希望するかかりつけ医や提携医となっていて、必要に応じて専門医の受診支援を家族と共に実施している。訪問による提携医の往診や訪問歯科も実施されている。協力医療機関との連携や急変時対応等、看護師の常駐により、24時間安心できる医療連携支援体制が構築されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師・看護師による指導・相談を適宜実施し、研修等の講演等の依頼を実施しています		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応は、送迎と家族との連携により対応、病院との関係は緊急時等の協力体制の充実を図っています		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の利用者さんに関しては、看護師指導により対応と終末期のご家族に関しては、主治医との密なる情報確認・家族の意向等を鑑みて、支援に取り組んでいます	重度化や終末期に向けた取組みとして、ホーム独自の詳細な「対応指針」を作成し、家族の同意を得る取組みを行なっている。状態変化に応じて、早い段階から看護師主導のもと、家族、ホーム職員と医療連携や方針の共有を図りつつ、チームで対応支援している。また、看取りの実績もある。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に対応するべき体制マニュアルによる対応と看護師指導による実践教育と医療機関への迅速な連携を実施しています	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局指導による防災訓練と防災マニュアルに沿って訓練の実施をしています	非常災害に備えて、昼夜想定避難訓練を消防署、地域住民の協力を得て、年2回実施している。災害対策マニュアル、防災手順書を作成し、全職員への徹底を図っている。また、ライフラインが途絶した場合の対応として、非常食・飲料水・防災用備品等が確保されている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの個性・人格を尊重し、プライドを傷つけないフットワークを保ちながら、プライバシーを尊重し、声かけや介護を実施しています	管理者と職員は、利用者の一人ひとりの尊厳、プライバシーの尊重に配慮し、見守り、声かけ等の支援を行なっている。個人情報の管理、取扱いや守秘義務遵守など適切な対応がとられている。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの希望や悩みを聞き、自己で決定できるように誘導支援する	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設、施設という思いをさせない雰囲気をつくり、規則よりその人のリズムに合わせた生活づくりを支援しています	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の中での季節の変わり目に、ご本人さんの希望の衣服の早めの身支度の支援や清潔感のあるみだしなみの支援をしています	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材による好みを利用者さんに聞き調理しており、調理の手伝い(少人数)や準備を実施している	利用者の楽しみの一つである食事は、和やかで家庭的な雰囲気のなか、介助の必要な利用者も含めて、職員と一緒にテーブルを囲み、食事を楽める支援が行なわれている。然しながら、利用者の重度化を迎え、現状では料理準備や後片付けなど、職員と共に行なうことが出来る利用者が減少してきている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの全身状態の把握と季節による水分量等を設置し、その人の習慣も含め対応しています		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎週木曜日に歯科受診と毎食後の口腔ケアの実施		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っています	排泄やおムツの使用をできるだけ減らし、利用者さんのペースで自立への工夫を実践しています	利用者一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、失敗を減らすと同時に、羞恥心に配慮した声かけ、早めの誘導に心がけている。また、職員は、利用者一人ひとりのペースに配慮しつつ、自立に向けたトイレでの排泄支援を行なっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューには消化の良い繊維性のものや主治医による指導を受け便秘解消のための工夫を実施しています		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者さんの希望に沿って入浴を実施しています	毎日入浴が可能となっている。利用者の体調や希望に沿って、入浴は週3～4回を基本としている。入浴困難な場合は、清拭・足浴で対応している。現在、重度の方の入浴について、職員負担の軽減を図るため浴槽の改善を検討中である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの睡眠状況を観察し、良眠できるように支援する		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医の指導及び定期的な検診により、正確な服薬をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や嗜好に合わせメニューを考え、誕生日会・花見他により支援しています		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出希望があれば、スタッフとの散歩や買い物を支援しています。またご家族の希望により宿泊しえんや自宅への訪問支援を実施しています	利用者の高齢化や重度化で、外出機会が減少傾向ではあるものの、出来るだけ戸外での活動を重視し、本人の希望や体調に合わせてホーム周辺や近くの公園までの散歩や買い物が日課となっている。普段行けない場所へは、家族の協力を得ながら、花見や植物園などの外出支援が行なわれている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ご家族の方にお願ひし、その都度所持してもらっていましたが、現在はありません		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の方の家族への電話・近況は連絡表にて郵送		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では、一般の民家の改装でやや狭いが、庭やソフト面・交流や訪問の開放で対応しています	ホームは木造2階建て、立派な庭園を配した、昭和の趣をふんだんに残したづくりである。共用の場所はいずれも家庭的で、利用者や職員にとっても「我家」に居るようなアットホームな雰囲気が特徴的である。利用者や職員が作成した作品や庭園からの眺めなど、季節感や生活感を感じることが出来る。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記の様に、民家の改造でのホームで、空間の確保がむずかしいが、出来るだけ居間を有効に使い、利用者さんは思い思いのまま過ごしていただくように工夫しています。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが使い慣れた、また生活していた雰囲気作りに家族と一緒に工夫しています	居室は、家族の協力を得て、本人が以前から使い慣れた家具、調度品や趣味のものが持ち込まれていて、自宅と違和感のない部屋づくりとなっている。清潔で安全に配慮された居住環境は、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、自立できるように部屋等は危険物をおかず、過剰な介護をせぬように心がけてくふうしています		